

《担当者名》 山口明彦 yama@hoku-iryo-u.ac.jp、泉唯史、高橋尚明、吉田晋、青木光広、本家寿洋、坂上哲可、太田亨、柳田早織、西出真也、井上恒志郎

【概要】

リハビリテーション科学研究が扱う多種多様な実践的研究における最新動向や知見を理解し、学際領域として発展するリハビリテーション科学研究において、多面的思考のもとで論理的に研究を遂行できる能力を養う。研究目的の遂行のために、どのような研究対象に、どのような方法を用い、結果に対してどのように解釈・考察し、結論を導いているのか、担当教員の各専門分野に関する最新動向や知見を題材としてオムニバス形式で授業を展開し、学修する。

【学修目標】

1. 各研究分野における研究動向、トピックスについて理解し、説明できる。
2. 各研究分野の諸問題に対して、どのような研究方法を用い、得られた結果に対してどう解釈・考察し、結論を導いているのかを理解し、説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 6	ガイダンス 生体構造機能・病態解析学分野における研究動向1	生理学的、生化学的、分子生物学的アプローチからの文献レビューを通して学習する。また、アンケートなどによる調査研究に関する文献レビューについても学習する。	山口明彦 太田亨 西出真也 井上恒志郎
7) 9	生体構造機能・病態解析学分野における研究動向2	解剖学的、運動学的、バイオメカニクスのアプローチからの文献レビューを通して学習する。	高橋尚明 青木光広
10	リハビリテーション治療学分野における研究動向1	内部障害を中心としたリハビリテーション治療学に関する文献レビューを通して学習する。	泉唯史
11) 12	リハビリテーション治療学分野における研究動向2	神経障害、運動障害を中心としたリハビリテーション治療学に関する文献レビューを通して学習する。	吉田晋
13	リハビリテーション治療学分野における研究動向3	発声発語障害を中心としたリハビリテーション治療学に関する文献レビューを通して学習する。	柳田早織
14) 15	地域健康生活支援学分野における研究動向	作業行動学的アプローチからの文献レビューを通して学習する。	本家寿洋 坂上哲可

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業における質疑応答・プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）

【教科書】

使用しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【学修の準備】

事前に指定された文献を読んで理解しておくこと（80分）。

授業時に紹介された文献を読み、理解を深めること（80分）。

プレゼンテーションを指示された場合は、プレゼンテーション資料を作成してくること（160分）